

基幹災害拠点病院機能の強化-1

災害時にも病院機能を維持し、中心的役割を果たすための事業継続計画と免震構造。

BCP (Business Continuity Plan: 事業継続計画)

- 基幹災害拠点病院として、震災などの大規模災害に重要業務を中断させないためにBCPを策定・運用します。
- 万一事業活動が中断した場合でも、目標復旧時間内に重要な機能を再開させ、事業活動の中断に伴うリスクを最低限にすべく、平時から事業活動の継続を戦略的に準備、計画しています。

免震構造

- 現時点での最も進んだ免震構造(免震装置)を採用しました。
- 大規模災害発生時にも、病院機能が維持できるよう、耐震性に優れた高性能免震構造となっています。
- 免震構造は、地震の揺れが大幅にカットされる構造になっており、上の階でも揺れ方が変わりません。

耐震構造 地震の揺れに対して建物自体を剛強にする考え方

制震構造 建物内にダンパーを設けて揺れを吸収する考え方

免震構造 (当院採用) 建物を免震装置により、地震から切り離し、建物に揺れを伝えにくくする考え方

5種類の免震装置を158基設置

- 地下1階床下に、5種類の免震装置を合計158基設けた基礎免震構造となっており、地震の揺れは、最大4分の1まで抑えられます。地震発生時の構造体の安全性のみならず、地震後も病院機能の維持が可能で、地域の防災拠点としての機能を高めています。



積層ゴム一体型鋼材ダンパー (31基)
地震時に鋼材の持つ復元力特性によって、地震エネルギーを吸収し、地震の揺れを低減します。



天然ゴム系積層ゴム (63基)
地震時には水平方向に柔らかく変形させ、地震力の建物への伝達を軽減します。



鉛プラグ入り積層ゴム (40基)
積層ゴムの変形にともなって、鉛プラグが変形。地震エネルギーを吸収し、振動を速やかに減衰します。



弾性すべり支承 (13基)
積層ゴムの変形と摺動材による滑りにより、小さな揺れから大地震まで、幅広く効果を発揮します。



直動転がり支承 (11基)
摩擦抵抗が極めて小さく、且つ、引拔力を基礎部に伝達できる性能を持っています。